

姫路市大学発まちづくり研究助成事業「成果発表会」

甲南大学マネジメント創造学部

姫路研究プロジェクト（倉本研究室）

テーマ：世界・後世に伝える「太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔」のあるまち姫路

研究の概要

・研究目的：「太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔」（以下、慰霊塔と表記）の存在を広く国内外の人々に知ってもらうきっかけ作り

・研究の背景：幾つかの世論調査より、「若者は戦争の歴史的事実の存在は認識。しかし時代への認識は低い。」

&今後、太平洋戦争を体験・経験した人々はますます高齢化

→若い世代が身近に戦争の話を伺える機会↓

→戦争の具体的なイメージを持ってない情報不足・認識不足↑

→若年層の戦争への危機感は増している中、戦争の実態を知る機会↓

⇒現実味の無い危機感を増長する可能性↑

※若者が正しく戦争を認識しない行動をする恐れがある

・我々のすること

①過去の戦争の事実を正しく学び、その情報を持って各自が平和について出来ることを考えるという環境を整備する。

②未だ世界の各地で行われている戦争の「負の影響」を日本国民が認識し、世界の様々な国や組織に伝える（理解してもらう）ことで、将来的に世界の国々で戦争を選択しない状況を作る。

⇒姫路市でできることを考える。

→姫路には慰霊塔がある。

&姫路の慰霊塔は全国的な追悼・祈りの場所である

&その様な施設は姫路にしかない

But 認知度が低い

⇒慰霊塔について、まずはその存在を広く国内外の人々に知ってもらう「きっかけ作り」が必要

・(改めて) 慰霊塔の魅力：慰霊塔周辺に平和関連の施設が集積

：平和資料館（平和を学べる）&手柄山中央公園（利用者が多い）

→集積のメリット

- 1) 様々な平和学習の機会を提供できる施設が近隣に存在(施設相互の効果を補完可能)
- 2) 一定規模以上の公園に慰霊塔も資料館も立地(追悼式以外の平和関連のイベントも考えられる)

・広島と長崎への視察からの提案(他都市との比較から学ぶ)

: 広島(2019年8月23日) & 長崎(2019年8月25日)での視察→3種類の提案

表3. 他の組織・団体と交渉が必要、もしくは展示室の改修等に投資が必要な提案内容

慰霊塔	資料館	公園
<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトでの各地での空襲の日 に開催される慰霊式を告知 ・ウェブサイトでの各地の慰霊式の様子を広報 ・ウェブサイトでの各市町からの平和へのメッセージを掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・空襲を体験した方々の手記や絵などの収集とデジタルアーカイブ化、館内備え付けのタブレットのタッチパネルを用いて閲覧できるコーナーの設置 ・地図や模型とプロジェクションマッピングを組み合わせた展示 ・子どもたちの学習コーナーの設置 ・姫路空襲時の地理や天気、日時、当時の生活など、根本的に何が被害の大きさに影響を与えたのかについて、詳細な被害状況からの解説 ・姫路に投下された焼夷弾の総量を示す模型展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・慰霊塔や慰霊碑ではなく、外に展示できるような全国の空襲関係の実物の展示 ・陸上競技場や野球場、水族館などの各施設について、太平洋戦争中に全国に存在し空襲の被害を受けている状況を紹介するパネルを手柄山中央公園内にある各施設の前に設置 ・手柄山中央公園内に関連する都市の記念像や慰霊碑のモニュメントを設置し、手柄山中央公園全体を周れるようなルートを考察 ・姫路市の戦争遺構の移築 ・JRの新駅からの高齢者や子ども連れの家族でも来場しやすい、移動手段の整備

表4. 他の組織・団体への申請が必要、もしくは一部の設備への投資で実行可能な提案内容

慰霊塔	資料館	公園
<ul style="list-style-type: none"> ・屋外でのQRコードとスマートフォンを使った慰霊塔の解説 	<ul style="list-style-type: none"> ・解説文の工夫(手話解説や点字解説、4か国語表記、子どもたちが理解しやすい文章表記) ・一つずつクリアケースに入った実物展示 ・目的・カテゴリー別にして展示を行う企画展の開催(「空襲に使われた飛行機」や「焼夷弾開発の歴史」など) ・展示室内の案内スタッフ(ボランティアも可)の配置。 ・折り鶴の再生紙やはがきへの再利用 ・入り口付近で常設としてアニメーション動画を上映 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アオギリ」の苗を広島からいただき、手柄山中央公園に植樹 ・手柄山中央公園を手柄山平和公園へ名称変更

	<ul style="list-style-type: none"> ・今いる語り部さんの孫にあたる世代や遺族の方が証言できる企画（語り部の引継ぎ）の実施 ・展示物に関するクイズの実施（館内の掲示物に掲載するQRコードをスマートフォンで読み取り、表示されるクイズに回答してもらう（アンケートも収集）） ・空襲時の臭いの分かるものの展示 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市民への資料館で姫路や全国での空襲被害や太平洋戦争の状況を学び、慰霊塔で姫路市や全国の被害者を慰霊する流れを明確化するための、学ぶ機会の増加 ・全国各地から空襲被害者の慰霊に訪れる方に向けては「慰霊塔の存在」や「なぜ、姫路に全国の空襲被害者を慰霊する塔があるのか」を知っていただくため、資料館に、その理由や慰霊塔建立までの詳細な経緯を知ってもらえる展示 	

表5. 今からでも出来ると考えられる提案内容

慰霊塔	資料館	公園
<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト、「今日は〇〇市での空襲があった日です。被害者を供養し、その霊を慰めるとともに、世界の恒久平和を祈念します。」との表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想ノートの設置 ・姫路城での空襲の解説と資料館の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅や主要施設から手柄山中央公園までの地図を作られる際に、単に場所を書くのではなく、分かりやすい目印も記載

・「学ぶ機会の増加」→視察からだけでは、具体的な案を示すことができない
⇒提案対象：姫路市内の小学生・中学生、調査：小学校と中学校の先生へのアンケート

・アンケートの概要
：姫路市内の全ての小学校（71校）と中学校（35校）、特別支援学校を対象に12月6日に送付（期限を12月20日に設定）

・アンケートの目的
：慰霊塔・資料館に対する意識調査と私たちが立案する、平和について子どもたちに興味を持ってもらえると考えたイベントへの関心を把握する

・アンケートで賛否を伺うイベント
①小学生向け：慰霊塔を含め手柄山周辺施設を利用し、夏休みに小学生が集まり、楽しみながら学べるイベント”夏休み宿題サポート教室 in 手柄山”
②中学生向け：慰霊塔を含め手柄山周辺施設を利用し、夏休みに中学生が集まり、楽しみながら学べるイベント『オリンピック種目にチャレンジしてみよう in 手柄山』

・アンケートから見るイベントへの評価

1) 告知方法の変化から見る

: 小学校でも中学校でも、我々の提案するイベントを行うことに関する宣伝・告知について、ほとんどの選択肢において、告知方法の実施を選んだ学校が増えている。

→ 一見、宣伝・広告が増えることはイベントが評価された？

→ ただし、選択肢によっては実施を選ばなくなる小学校と中学校あり。

→ 何が評価されたのかも分からない。

⇒ 2) 統計的に「賛成する」を選ぶ小学校や中学校の特徴を確認

・アンケート結果を用いたの統計分析（回帰分析）

: どのような特徴を持つ学校が我々の提案するイベントに賛成をしてくれたのか？

・被説明変数→我々の提案するイベントへの賛成を1、条件付き賛成を0（ゼロ）とするダミー変数

・説明変数

1. 平和学習の時間の各学年の数値（小学校は6年生、5年生、4年生、の3学年、中学校は3学年分の各学年）→この数字が大きいほど、小学校も中学校も、平和学習に力を入れていると判断

2. これまでの慰霊塔や資料館からのイベントの開催に関しての告知方法（プリントの配布の実施の有無、プリントやポスターの掲示の実施の有無、口頭での告知の実施の有無）
→告知を各方法で実行している学校は平和学習への力を入れていると判断。

・統計分析の結果の解釈

1) 小学校：告知への力を入れておられる小学校ほど、賛成する確率が高まる。

2) 中学校：すでに中学2年生時の平和学習に力を入れている中学校ほど、条件なしで賛成する確率が低くなる。

→我々のイベントに関する提案は、平和学習に力を入れている中学校ほど、条件付きでしか賛同を得られない。

→（実施するには）アンケートの賛成の条件に書かれていたように、教員の負担や安全面などに、気を付けねばならない。

・最後に

本研究に協力いただいた姫路市役所の各担当部署の皆様、教育委員会の皆様、姫路市内の小学校と中学校の皆様、また、姫路と広島、長崎にて視察や聞き取り調査にご協力下さった皆様に厚く感謝の意をしめす。